

令和 4 年度版「赤穂の環境」（速報）の概要について

1. 大気環境

- (1) 硫黄酸化物（二酸化硫黄）
 - ・一般環境大気監視局（8局）において環境基準に適合していた。
 - ・年間平均値（8局平均）は0.003 ppm であり、近年低濃度で推移している。
- (2) 浮遊粒子状物質
 - ・一般大気監視局（8局）における環境基準適合率は、1時間値・日平均値ともに100%であった。
 - ・年間平均値（8局平均）は0.012 mg/m³ であり、前年度と同程度の値となっている。
- (3) 窒素酸化物（二酸化窒素）
 - ・一般環境大気監視局（8局）において環境基準に適合していた。
 - ・年間平均値（8局平均）は0.007 ppm であり、近年同程度の値で推移している。
- (4) 光化学オキシダント
 - ・市役所局及び有年監視局において測定。
 - ・環境基準適合率は90.9～94.5%であった。
 - ・年間平均値（2局平均）は0.034 ppm であった。
 - ・光化学スモッグ広報等は、市役所局のデータに基づき兵庫県より発令されることとなっているが、令和3年度、光化学スモッグ予報及び注意報の発令はなかった。
- (5) 降下ばいじん
 - ・市内10地点において測定。
 - ・年間平均値は1.72 t/km²/月であり、本市の環境目標値に適合しており、また、近年同程度の値で推移している。
- (6) 微小粒子状物質（PM2.5）
 - ・平成25年11月から市役所において測定開始。
 - ・1時間値の年間平均値は6.9 µg/m³ であり、環境基準に適合していた。
 - ・赤穂市を含む播磨西部地域において注意喚起情報の発信はなかった。

2. 水質環境

(1) 河川

千種川、長谷川、加里屋川、新川、大津川、塩屋川、矢野川の7河川、15地点において水質調査を実施。

・千種川の環境基準適合率

| 水素イオン濃度(pH) | 生物化学的酸素要求量(BOD) | 浮遊物質質量(SS) | 溶存酸素量(DO) | 大腸菌群数 |
|-------------|-----------------|------------|-----------|-------|
| 100% | 100% | 100% | 100% | 43% |

前年度より溶存酸素量、大腸菌群数の適合率が上がっていた。

・その他の河川の環境目標値適合率の総合評価

| 水素イオン濃度(pH) | 生物化学的酸素要求量(BOD) | 浮遊物質質量(SS) | 溶存酸素量(DO) | 大腸菌群数 |
|-------------|-----------------|------------|-----------|-------|
| 100% | 100% | 89% | 100% | 57% |

(2) 海域

地先海域の11地点において水質調査を実施。

・地先海域における環境基準適合率

| 水素イオン濃度(pH) | 化学的酸素要求量(COD) | 溶存酸素量(DO) | 大腸菌群数 |
|-------------|---------------|-----------|-------|
| 100% | 14% | 75% | 100% |

前年度より水素イオン濃度適合率は上がり、化学的酸素要求量、溶存酸素量の適合率は下がっていた。